

2) サービスについて

①困難ケースにおけるサービス計画（複数回答） （n=75）

関係機関と連絡を取り合って計画を立てる	54	72.0%
支援センターのスタッフで話し合って計画を立てる	4	5.3%
本人と支援センタースタッフで話し合って計画を立てる	15	20.0%
高齢者サービス調整チームで計画を立てる	34	45.3%
随時関係者を集めケース検討の場で立てる	20	26.7%
不明	2	2.6%

②突然の退院などの緊急の対応（n=75）

保険・医療・福祉関係者がすぐに集まって対応	36	48.0%
母体施設の協力などもあり対応	17	22.7%
他からの協力が得られず対応が不十分	18	24.0%
不明	4	5.3%

③クライアントの必要とするサービスがない場合の対応（複数回答）（n=75）

関係機関が代替的なサービスを提供できるか交渉する	44	58.7%
高齢者サービス調整チームに提示し問題解決を図る	39	52.0%
ボランティア等の代替的なサービスを探す	24	2.0%
現状では対応できていない	11	14.7%
不明	2	2.7%

④クライアントを取り巻く家族、近隣の人への働きかけ（n=75）

よくある	32	42.7%
ときどきある	38	50.7%
ほとんどない	3	4.0%
不明	2	2.7%

⑤介護問題を越えた問題への対応（n=75）

対応している	36	48.0%
対応していない	8	10.7%
別の相談窓口を紹介している	19	25.3%
その他	11	14.7%
不明	1	1.3%

⑥サービス提供後のフォロー（複数回答）（n=75）

定期的な効果測定、再評価のための取り組みを行う	5	6.7%
定期的に電話を入れたり訪問する	44	58.7%
ケースに変化が生じたとき再評価を行う	24	32.0%
高齢者サービス調整チームを通して再評価を行う	36	48.0%
サービス提供者と連絡を取り合う	9	12.0%
ほとんど行ってない	3	4.0%
不明	2	2.7%

3) 訪問活動について

①1ヶ月の相談件数の内で訪問件数が占める割合 （n=75）

行っていない	1	1.3%
1割以下	5	6.7%
1割から2割	11	14.7%
2割から3割	6	8.0%
3割以上	50	66.7%
不明	2	2.7%

②訪問の形態（n=75）

異職種がともに訪問する	24	32.0%
どちらかが訪問し、後で報告する	24	32.0%
時間があるとき以外はどちらかが訪問	24	32.0%
不明	3	32.0%

③両方の職員で訪問する理由（n=24）

異職種それぞれの視点を生かした処遇をするため	17	70.8%
職員両方が地域のすべてのケースを把握するため	4	16.7%
その他	1	4.2%
不明	2	8.3%

④片方の職員で訪問する理由（n=75）

少しでも多くのケースを効率よく扱うため	42	87.5%
両方の職員で相談を受ける必要性がないため	2	4.2%
片方の職員が母体施設と兼任しているため	1	2.1%
その他	2	4.2%
不明	1	2.1%

4) 地域での活動について

①担当しているケース実態の把握（n=75）

把握できている	36	48.0%
あまり把握できていない	37	49.3%
不明	2	2.7%

②地域にかけているサービスの開発（複数回答） （n=75）

実務者会議等で話し合い、責任者レベルの会議に問題提起している	31	41.3%
運営協議会等で専門職や民生委員、ボランティア等と話し合いサービス開発	17	22.7%
支援センターが中心となってボランティアを組織化	3	4.0%
現状としては対応できていない	32	42.7%
不明	1	1.3%